慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	学位授与者氏名及び論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2001
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.52 (2001.) ,p.87-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069 57X-00000052-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学事報告

学位授与者氏名及び論文題目

修　士（平成13年3月）

社会学修士（社会学専攻のもの）

第969号　松田　茂樹　育児ネットワークと母親のwell-being

第970号　関口　俊之　相互行為における「他者性」の問題
—アンソニー・ギデンズへの共感的批判—

第971号　宮坂　　清　北インド，ラダック地方のチベット系社会の医療人類学的考察
—巫者ラバ・ラモを事例として—

第972号　成岡　英樹　ボランティアの活動意欲に関する研究

第973号　泉　　暁　生活意識からみる「親族」関係（鹿児島県大島郡徳之島町井之川の事例より）
—「現-場-性」理論の構築へ向けて—

第974号　大坪　寛子　現実認識および社会的意識に及ぼすテレビの影響

第975号　内田　恭子　来日外国人児童生徒への多文化教育の可能性
—日系南米人の事例から—

第976号　松尾　信明　互酬性と「2重性」

第977号　柿元　綾乃　化粧行動が対人的行動に及ぼす影響

第978号　輿水　辰春　「民俗芸能」に関する知識の一考察
—山梨県南都留郡秋山村無生野大念仏を事例として—

第979号　中山佳代子　ミード社会理論の可能性
—時間次元導入による再構築—

第980号　髙岡　文章　大衆観光 (mass tourism) の歴史的展開とその両面的評価

第981号　菅原　陽子　国民国家日本の言語戦略
—標準語イデオロギーと言語関係の構築—

第982号　河野　憲一　理念型的認識の徹底によるシュッツ学問論のプラグマティズム的展開

第983号　神野香保子　「正当世界の信念 (Belief in a Just World) に関する研究

第984号　椋尾　麻子　言語と主体
—ナショナル・アイデンティティと「アーティキュレーション」概念をめぐって—

第985号　梁　　鎮元　精神医学的判断に及ぼす精神病ストレオタイプの効果について
—精神病ラベルの付与によって生じる認知の変容を中心に—

心理学修士（心理学専攻のもの）

第986号　太田　真紀　吃音児の肯定的自己評価を促進する要因について
—成人吃音者への思春期を中心とする回顧的質問紙調査より—

教育学修士（教育学専攻のもの）

第987号　山内　涼子　公立中学校における「心の教室相談員」の実践に関する研究

第988号　高　　せい　『論語』における「楽」論

第989号　黒瀬　剛秀　高等学校における普通教育としての「職業教育」
—1970年代の京都を中心に—

第990号　小竹　雅子　ルドルフ・シュタイナー教育論の基礎としての人間理解
—人智学・グノーシスの「悪」の問題をめぐって—

博　士（平成12年度）
社会学博士（平成12年7月12日）

甲　第1845号　外川　昌彦

インド・ベンガル地方の女神信仰と村落社会

〔論文審査担当者〕

主査　慶應義塾大学文学部教授・
　　大学院社会学研究科委員
　　文学博士　　鈴木　正崇
副査　慶應義塾大学名誉教授・
　　國學院大學文学部教授
　　文学博士　　宮家　　準
副査　東海大学文学部教授
　　Ph.D.　　臼田　雅之

論文審査の要旨

本論文は，インド・西ベンガル州での村落調査に基づいて，女神信仰と村落寺院の関係を祭祀組織を通して研究し，ヒンドゥー社会の多様な側面を明らかにした。調査地は，ブラフマン（バラモン）から不可触民までを含む，18のカースト集団から構成される村落である。筆者は，インドに通算で5年間滞在し，そのうちの1994年2月より1995年5月までの1年4カ月の間，この村落に住み込んで調査を実施し，家庭・親族・カースト・村落の祭祀を，地域のヒンドゥー王権との関わりを含めて，総合的に検討した。極めて多岐にわたる村落での調査資料を，社会階層の関係性に焦点を合わせて，相互に関連付けて考察した点に，大きな特徴があると言える。論文は全4部からなる。構成は調査地の社会構成に従って，第1部は村落，第2部は王権とジョガッダ女神，第3部はリネージやカーストの多様な女神，第4部は家庭の祭祀を論じ，女神信仰を基軸として，多様な角度から村落社会の在り方を明らかにした。構成は以下の通りである。

序　論
第1部　村落の概況
　第1章　ベンガル農村社会の歴史的背景
　第2章　調査村の社会的背景
　第3章　調査村の歴史的背景
第2部　ヒンドゥー王権と女神
　第1章　ジョガッダ女神寺院の祭祀組織
　第2章　ジョガッダ女神寺院の年中行事
　第3章　ジョガッダ女神寺院の儀礼
　第4章　ジョガッダ女神祭祀と村落
第3部　村落社会と女神
　第1章　寺院祭祀と村落祭祀
　第2章　ドゥルガ女神祭祀
　第3章　モノシャ女神祭祀
　第4章　農耕儀礼
第4部　家庭祭祀と女神
　第1章　ベンガルのブロト儀礼
　第2章　調査村におけるブロト儀礼
　第3章　ショスティ女神のブロト儀礼
　第4章　少女によるブロト儀礼
　第5章　ラクシュミー女神のブロト儀礼
　第6章　その他のブロト儀礼
　第7章　ブロト儀礼と女性
結　論
付　録　ブロト物語のテキスト

序論はベンガルの農村に関する人類学的研究を概観し，研究上の問題点を指摘して，本論文の意図を明確にする。目標は体系的な民俗誌の構築による多様な論点の統一的理解への方向である。最初に，ベンガル地方に関する民俗誌のうち，植民地下のイギリス行政官の地域研究と，成立期の人類学の研究を，研究対象と方法論の偏りを指摘した上で，批判的に検討する。これと平行して，イギリス社会人類学を移入して発展したカルカッタを中心としたインドでの人類学の形成を概観し，機能主義が導入されて，その後の研究を規定していく経緯が述べられる。1950年代以降は，シュリニヴァス(Srinivas)やマリオット(Marriot)の大伝統と小伝統，サンスクリット化などの概念による構造・機能論的インド理解が，次第にデュモン(Dumont)の浄―不浄による階層化や宗教性の卓越性という構造主義的見解にとって代わられ，大きく展開したことを指摘する。構造主義の革新性と問題点が検討されたが，この視点を導入した上で，ベンガル社会を地道な資料を積み重ねて理解するような人類学的成果はあまり多くないという。1980年代以降の文化人類学では，ポスト・デュモン的枠組みとして，ブラフマン司祭のカースト内での位置付けの再検討，現世放棄者とヒンドゥー王権論への着目が挙げられ，本論文では，特に王権論について，村落での詳細な調査に基づき，女神信仰を中核にして，王権と社会が相互に結び付けられていく重層的な過程を考察したと述べる。これは，従来